



令和7年2月12日

令和6年度 八王子市立館小中学校 学校経営画報告書

＜小学部の教育目標＞

◎考える子 ○明るい子 ○やさしい子 ○はたらく子

＜中学部の教育目標＞

○主体的に生きる生徒 ○心豊かに生きる生徒 ○逞しく生きる生徒

1 目指す学校 ＜館に集う全ての人の 生命と人権の尊重＞

小中一貫教育目標	目指す児童・生徒像	目指す学校像	目指す教師像
○高める自己 ⇒	主体的に学ぶ児童・生徒	9年間で育てる学校	学ぶ意欲に火をつける教師
○かがやく笑顔 ⇒	自己を磨き他人を大切にする児童・生徒	自己有用感が高まる学校	潜在能力を引き出す教師
◎あふれる元気 ⇒	心身ともに健全な児童・生徒	居心地がよい学校	自ら学び続ける教師
○地域づくり ⇒	地域に貢献する児童・生徒	信頼される学校	公立学校の使命を自覚する教師

2 中期的目標と方策

義務教育9年間を見通して、発達の段階に即したねらいを設定した重点的な指導を展開する。

⇒第1期（小学校前・中期、小1～小4）基礎基本を繰り返して習熟を図る。

⇒第2期（小学校後期・中学校前期、小5～中1）基礎基本を活かして思考力・判断力・表現力をつける。小学部教科担任制の導入による小中の一層の円滑な接続。

⇒第3期（中学校後期、中2～中3）基礎基本を応用して適性・能力を伸ばす。

3 今年度の取組の目標と方策 （重点目標）

(1) 【学校経営】 【数値目標：学校評価・学校の経営方針を知っている90%】

① 生命・人権の尊重

全教育活動を通して発達段階に即した生命・人権尊重の教育を推進する。

命の授業：命の大切さを考える日、生命尊重の道徳授業、赤ちゃんふれあい、がん教育、命の授業、戦争体験語り部等。

人権教育の推進：ありがとうの木、保幼小連携、人権擁護委員の授業、高齢者理解（認知症サポーター養成講座）、障害者理解（八王子盲学校交流会）等。

人権感覚を磨き、指導の中で児童・生徒への呼称や言動には十分気を付ける。性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないための指導を行う。

○命の授業は年度当初の計画に加え、内閣官房国際博覧会事務局による EXPO スクールキャラバンの出前授業「内視鏡」を実施することができた。人権教育では地域の介護施設ゆいま～る館ヶ丘の作品掲示を行った。

○教職員の人権感覚を磨く研修は継続して実施する。

② 小中一貫教育

校訓、教育目標の具現化を目指して小学部、中学部、小中一体のそれぞれの良さを生かして9年間の切れ目のない教育活動を推進する。年2回の学校評価を実施し、学校経営の改善を図る。

▲開校当初に比べより少人数化が進んでいるため、教育活動の一層の見直しが必要である。小学部から中学部へのより円滑な移行を目指し、小5小6中1のよりよいつながりを検討する。

③ 小学部教科担任制

東京都教育委員会の小規模校におけるモデル校としてガイドラインに沿って推進し、指導体制の転換を図り、その実践・検証を行う。

○昨年度から綿密な協議を経ていたため、円滑の導入ができた。中学部や専科の教員も含めて持ち時数を見直したため、昨年度より業務の平準化が進んだ。

④ 教師の資質能力の向上

小中指導交流、相互参観により、良さを学び合い指導に生かす。各自の職層や課題に応じた研修を計画的に受講するとともに、先進研究校へ積極的に出張する。

○2学期に小学部と中学部の教員がお互いに授業参観を実施した。主幹教諭による若手教員へのOJTも行うことができた。

▲先進校へのお出張研修は一部の教員に留まり、より啓発、校内還元を図る意識を交渉させていく必要がある。

⑤ 公務員の自覚

児童・生徒、保護者や地域の信頼を失うことがないような態度で勤務する。交通事故防止や体罰防止、個人情報の管理について研修を通してサービスの厳正に努める。私費会計については費用対効果を念頭においた負担軽減と適正な会計報告を行う。ゆとりのある働き方への改革を進めるため、会議等の時間を短縮して、勤務の割り振りを見直す。

○サービス事故0を達成した。継続して管理職によるサービス事故防止研修、日ごろの啓発を継続する。

▲私費会計の負担軽減については今年度の一定の見直しを図り、来年度実施する。

⑥ 小規模化対策

受け継がれてきた小中一貫の理想をリスペクトしつつ、持続可能な教育活動の在り方（秋の文化的行事、中学部のスキー教室等）を検討する。館小中の伝統・魅力を発信する。

○小規模化の最大のメリットである一人ひとりを手厚く指導できる面で、児童生徒の自己有用感が向上している。年度途中から本校を選択して転入する児童生徒も多く、期待に応えていきたい。

▲地域の少子化がますます進行している中で、少ない児童生徒、少ない教職員で時速可能かつ魅力的な学校をいかに作っていくかが喫緊の課題である。

(2) 【学習指導】 【数値目標：学校評価・授業の説明、話し合い、ICT等の工夫に取り組んでいる80%】

① 基礎基本の徹底定着

15の春を見据えて少人数・小中一貫の利点を生かし、児童・生徒の特性や学習進度に応じた指導を進める。小6～中3においては「はちおうじっ子ミニマム」を活用して一人ひとりが社会生活を営む上で最低限身に付けるべき基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

補充的な学習として地域の方が主体となっていく小学部「サタスタ」、中学部定期テスト前「スペース」、学習部活動「ラーニングアソシエーション」を充実させる。

○小学部の「サタスタ」は平日、地域主体の「タテスト」へ移行した。

▲基礎基本のよい一層の定着には教師の指導力向上が何より不可欠であり、校内研修の充実、OFF-JTに向かいやすい時間確保のための働き方改革の推進が必要である。

② 授業のユニバーサルデザイン化を推進

どの児童生徒にとってもわかりやすい指導体制を構築するため、学力向上プロジェクトを基に言葉がけ、教室環境、指導法を揃える。特に見通しをもって授業に取り組ませるため、ねらいや流れの提示、チョークの色、板書の構造化を工夫する。

○ねらいや流れの提示、チョークの色はほぼ共有できている。

▲板書の構造化には教員の中で温度差が残り課題である。

③ 教える→学ぶ

児童生徒が主体となって学び合う協働的な学びへ改善を進め、分からない子は聴いたことで分かるようになり、教えた子は教えたことでより定着が進む授業を工夫する。

○児童・生徒主体の協働的な学習活動に加え、指導の個別化、学習の個性化を意識した個別最適な学びへの授業改善を進めていく。

④ 適正で信頼される評価

学習改善と指導改善に資するべく、指導と評価の一体化を進める。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」の状況を踏まえた上で評価を行うことに留意する。

○特に中学部の「主体的に学習に取り組む態度」について、他の2観点と関連付けた評価を来年度以降も継続的に確認していく必要がある。

⑤ 学習端末

GIGAスクール構想定着期（令和6・7年）として、学校や家庭で日常的かつ効果的に活用する。児童生徒が適切・安全な使い方、教師の授業スキルの向上を目指し、校内研修を通して、個別最適化学習、協働学習、不登校対応への有効活用法を身に付ける。

○2年間の校内研修の成果として、教員のスキルが向上し、ICTの利活用場面が増えている。

▲「主体的で対話的な深い学び」を進めるICTの活用の工夫を広めていく必要がある。

⑥ 考える、議論する道徳

自分との関りで道徳的価値を考えたり、多様な考え方や感じ方と出会ったりするために考える、議論する道徳の授業を行う。ローテーション授業の取入れや外部講師の活用を進めつつ、年35時間確実に実施する。

○人権擁護委員など担任以外にも指導者の枠を広げ、中学部は学年教師のローテーションにより教師それぞれの多様な人生観を基にした道徳的価値に触れることができた。

(3) 【生活指導・進路指導】 【数値目標：いじめを許さない学校に取り組んでいる90%】

① 年間生活目標「あいさつ励行」

校訓「笑顔笑声」の理想を実現するための第一歩として、教師の率先垂範、師弟同行による実践、全教育活動を通じた指導、児童会生徒会の主体的取組等により目標の達成を目指す。

○伝統である中学部生徒会の Ohayo-day の継続、教員の率先垂範により明るい挨拶ができる児童・生徒が多い。

② 不登校対策

SC や関係機関支援、保護者連携を進め、一人ひとりに応じたセミオーダーメイド型の支援体制を構築する。登校支援コーディネーターを核として「個票システム」による早期把握を行う。市の不登校総合対策「つながるプラン」を基に、VLP（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）の活用やフリースクールとの連携、不登校児童生徒の出席の取扱いガイドラインの周知を進める。

○学校の実態から不登校児童生徒が多く在籍しているため教員は意識高く個別の対応を行っている。八王子市「つながるプラン」の理念を校内で共有し、今年度からVLPの活用、はちっこキッチンやはちびバの活用も始まった。

③ いじめを許さない学校

「いじめの防止等に関する基本的な方針（市教委）」を基に法に則り適切な対応を行う。SC、SSW等専門家の支援を受け、いじめ対策委員会、いじめ防止研修、生活アンケートで状況把握、情報・指導方針を共有する。学び合う授業改善により、より良い人間関係、居場所のある教室環境を構築することで、お互いを認め合う思いやりや寛容の心を育て、いじめに向かわない力を身に付けさせる。

○教職員のいじめに関する意識は高く年3回のいじめ防止研修、毎週のいじめ対策委員会の実施により未然防止、早期発見、早期対応を心掛けた。

④ 特別支援の充実

インクルーシブ教育の理念を踏まえ、発達障害についての理解を深め、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな支援体制と構築する。教育相談委員会の定例化や特別支援教室との指導連携により、校内の共通理解を図るとともに、家庭との合意を基に児童・生徒への個別対応を充実させる。

○講師を依頼して特別支援研修を実施した。配慮を要する児童・生徒へのきめ細かな対応が求められている実態がある。特別支援教室の指導教諭との連携をより密にしていきたい。

⑤ 安全教育

安全保持義務を尽くして事故の未然防止、安全指導の徹底を図る。週案による安全配慮内容の記載により、未然防止の意識を高める。児童・生徒自ら生活安全、交通安全、災害安全について主体的に判断し行動できる力を育む指導を充実させる。

熱中症に関しては、生命を第一に考え、環境省が発表する暑さ指数「八王子 31（危険）」が示された時間帯及び、活動場所においてWBGT 31を示した場合は運動、外遊びを中止する。

食の安全確保のため、定期的にアレルギー対策委員会を開催する。

○ASUKAモデルを活用した年度当初の心肺蘇生法・AED研修、アレルギー対応は充実し、教職員の意識が高まってきている。熱中症対策も徹底してきている。来年度は分校舎の空調を有効活用できる教育課程を計画する。

⑥ キャリア教育

児童・生徒の自己実現に向けて体験活動等に基づいたキャリア教育の充実を図る。集団の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えることができるようにする。家庭と連携するキャリアパスポートの活用、地域等の関係機関と連携する職場体験の実施、進路情報の提供及び進路相談の充実を図る。

○中2の職場体験は少人数を生かした一人一事業所展開で、自覚を高めることができた。

▲昨年度と同様に、学校評価における認知度が低いため、活動内容を周知していく必要がある。

(4)【特別活動他】 【数値目標：学校評価・授業や学校行事に意欲的に取り組むよう指導している90%】

① 学校行事

少人数の実態に合わせて児童生徒が達成感、成就感を味わえるように工夫し、体験的な活動を通して集団への所属感や連帯感を深める。また今後持続可能な行事の在り方を検討するとともに、宿泊行事においては家庭の費用負担も考慮する。

○中学部の音楽会はコンクール形式から発表形式に変更となったが、児童生徒の意欲的な取り組みは変わらずに充実した内容であった。来年度から中学部1・2年のスキー教室は2学年合同の隔年実

施、小学部 5 年生の宿泊行事は市内施設実施とする。秋の文化的行事を小中一体化した音楽祭（仮称）の実施を計画している。

② 異年齢交流

人と関わり合う喜びを感じさせ、社会性や自己有用感の向上を図る。下級生には上級生を見て憧れと目標をもたせ、上級生には思いやりの気持ちと自覚的な態度を育ませる。小中の交流を通して教員も相互の発達段階の理解を深め、中学部への円滑な移行に備える。

○小学部は計画的なたてわり交流活動を行っており、特に 6 年生が自覚的に成長の機会となっている。

▲小中の異学年交流の時間が少ないため、来年度の課題である。

③ 部活動改革

生徒の健全育成、保護者の期待に応えると同時に、教育的意義を踏まえ、教員のライフワークバランスを十分に考慮しながら推進するとともに、八王子市部活動改革の方針を受け、今後 3 年間かけて本校の実態に合わせた形で再編を進めていく。

○市のカテゴリーに基づいて向こう 3 年間で計画である。小 5 6 へ門戸開放を行う。

▲教員数が限られている中で全てのカテゴリーを満たすことが困難であることと、特色ある部活動の部員確保に向けた広域化も課題である。

④ 児童会・生徒会

小中一貫校の良さを生かして児童会活動と生徒会活動の連携を推進する。はちおうじっ子サミットの機会を生かしていじめ防止の主体的な取り組みを行う。

○はちおうじっ子サミットの結果を朝会で全校児童生徒と共有した。

▲児童生徒が主催するいじめ防止活動や交流活動をより活発に行っていきたい。

⑤ ボランティア活動

児童・生徒の自己有用感の高揚を図り、青少対のクリーン活動など地域の一員としての自覚を高める奉仕的活動に参加できるよう周知する。

▲クリーン活動の参加者が減少している。保護者への協力を要請していきたい。

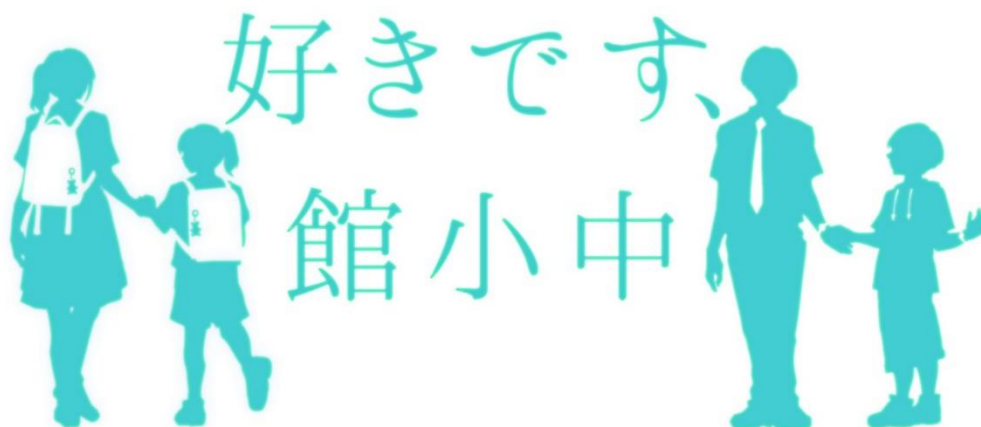
⑥ 家庭・地域との連携

地域運営学校（コミュニティスクール）として、学校運営協議会の熟議を経た学校経営を推進する。地域の子供は地域で育てる理念のもとアウトソーシングにより外部リソースの活用を進めて地域と共に児童・生徒を育てる。学校たより、学年たより、HP の随時更新により教育活動を丁寧に周知・説明して、理解と協力を仰ぐ。教員はクリーン活動や青少対行事、祭礼等最低年 1 回の地域行事参加を心掛ける。

○地域主体の防災訓練、補習教室を行うことができたのは大きな進歩である。

▲教員が公私のバランスを保ちつつ参加しやすいような働き方改革を進めていく必要がある。

昭和 50 年 4 月 1 日	上館小学校・殿入小学校開校 館中学校開校（創立記念日 5/10）
平成 14 年 4 月 1 日	館小学校開校（創立記念日 12/1）
平成 23 年 4 月 5 日	小中一貫校 館小中学校開校
平成 24 年 11 月 5 日	校訓「笑顔笑声」制定 開校記念日



《スローガンロゴについて》

小学部から通っていた子が中学部に進み、かつて自分の手を引いています。
女の子はランドセルからリュックサックへ、男の子はパーカーのひもからネクタイへ。
しかし、女の子はキーホルダー、男の子は腕時計をそのまま使用しています。
変わるべきところは変わり、いいところはそのまま、というコンセプトを意匠化しました。